

銘柄分析レポート：実はこの会社、タダです

1 はじめに

株式市場は、不思議な場所です。

まだ利益を上げていないにもかかわらず、とんでもない高値で売買されている株があるからです。こんな銘柄に群がっている投資家（投機家？）は、夢でも買っているのでしょうか。

一方で、毎年のように利益を出し、配当を支払っていても、タダもしくはタダ同然で売られている株があります。もちろん、現実派のバリュート投資家としては、タダもしくはタダ同然の会社を狙いたいです。

その際、使用する指標がEV/EBIT倍率です。

● $EV/EBIT$ 倍率 = EV （企業価値） / $EBIT$ （営業利益）

● $EV =$ 時価総額 + 有利子負債 - 現金同等物

EVはビジネスの値段で、EBITはビジネスからの利益です。当期純利益でなくEBITを用いるのは、金融収支や特別損益など、本業とは直接関係のない損益を除外するためです。

この指標を用いれば、ある企業を丸々買収し、借金を立て替え、会社の金庫にあるお金を自分のポケットに入れた後、税引前にて何年で元が取れるかを計算できます。

EV/EBIT倍率が0倍以下ならタダ、1倍以下ならタダ同然です。

企業を丸々買うのも、その部分所有権である株を買うのも、理屈はほぼ同じですから、この考え方は株式投資にも適用できます。

現にバリュート投資家として知られている、ポール・ソンキン、ジョエル・グリーンブラット、ジャン・マリー・エベヤール（ファースト・イーグル・ファンドの運用者）も、この指標を用いバリュート株を発掘しました。

今回の銘柄分析レポートでは、EV/EBIT倍率であぶりだされた、タダもしくはタダ同然の会社を取り上げます。